

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えなどを分かりやすく相手に説明したり、紹介したり、感想を述べたりすることに個人差がある。 大きな集団の中で話すことに抵抗を感じる児童が多い。また、相手に伝わりやすいような声の大きさや速さで話すことが苦手な児童もいる。 相手の話に関心をもち、最後まで聞き落とさないように集中して聞くことが不十分である。話し合い活動では、ペアやグループのメンバーによって、話し合いが途切れてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 分かりやすく説明できるように、「始め-中-終わり」という構成の指導を積み上げていく。（短冊カード・付箋紙の活用など） 朝の会や帰りの会でスピーチの時間を設け、話すことを習慣化させていく。聞き手の反応をよく見ながら、姿勢や口形に気を付けて話をさせる。 互いに認め合う雰囲気的大事にしながら、質問したり、共感を示したりするなど、話をつなげる場の設定や時間配分を工夫する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 話を最後まで聞かずに、話しの途中で質問や自分の思ったことを話してしまう。話す人の顔を見て、うなずきながら聞く児童が少ない。（互いの話に関心をもち。） 話の内容を捉えて感想をもつことが難しい。話の内容の理解が難しいこともある。 相手のよいところを見つけて、感想を伝え合うことが苦手な児童が多い。 話したいことはあるが、適切な言葉が思いつかないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く素地をつくるために、相手を見て話を聞くことの徹底をする。話をする人も全体に向けて伝える意識をもって話すように指導する。 話すときに分かりやすい言葉を使うこと、短く話すことを心がける。 帰りの会で一日の振り返りを行い、友達のよい行動を伝えられる機会をつくる。 読書活動の中で、意図的に読み聞かせの場を設定し、いろいろな言葉や表現の仕方に触れられるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の性質や役割、語句のまとまりの理解や語彙に個人差がある。 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話の要点が明確になるように詳しく話すことが苦手な児童がいる。 必要なことを記録したり質問したりしながら聞くことや話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを捉えようとして聞くことが苦手な児童が多い。自分の考えをもてる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く読書に親しみ、読書によって必要な知識や情報を得るようにするとともに、辞典や図鑑などの活用を図り、的確な表現に触れるようにする。 朝の会のスピーチなどの話す聞く機会や日常的にグループでの話し合い活動を増やし、話し方や聞き方の知識・技能を高める。 話すことの構成を考える必要性を感じ、目的や相手意識をもった伝え合いの経験を他教科でも意図的に増やす。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容を正確に聞き取ることができず、質問することで内容を把握する児童が多い。 学年全体で語彙力が十分でない児童が多く、話したことが理解できていないことがある。また、一つの言葉の理解に時間がかかる。 自分の意見と違うときに、相手の話した内容を十分検討する前に、すぐ反対する児童が多い。また、反対意見に対して、自分の考えを否定されたと捉えてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 話始めにテーマを伝え、最後に大事な部分を繰り返し伝えるようにする。また、視覚的に捉えられるように教員がキーワードを板書したり、児童にメモを取る経験を積みせたりする。 分かりやすい言葉に変換し、意味を確認してから話を進める。 めあてに沿って、根拠のある意見を言えるように指導する。様々な意見がでることは、よりよい考えを出す過程で必要なことだと日々指導する。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが相手に分かるように、工夫して話すことが苦手な児童が多い。 ・自分の考えと比べながら聞く力については、個人差が大きい。 ・話合いの場面では、一問一答になりがちで、深まらないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを話す活動の前には、詳しく話すための準備をしたり、原稿を書いたりする活動を設ける。 ・自分の考えをはっきりさせ、聞きながら同じ点や相違点、感想等をメモする活動を設ける。 ・話合いは、児童が興味をもてるような話題にする。また、実践的な場になるように工夫する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く際に、必要事項をメモに取りながら一度で聞き取る力に課題がある。 ・話合い時に、自分の考えを言うことが第一優先になることが多々ある。話し手の意図や考えを聞き取り、関連させながらつながりのある話し合いが苦手な児童がいる。 ・互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたり、深めたり、まとめたりする力は個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモする際には、大切なことをキーワードや短文で記すよう指導する。 ・1時間の授業の中で、自分の考えを伝え、話し合う活動を意図的に設ける。 ・授業では、児童同士の相互指名を取り入れる。意見、考えをつなげられるように、指名する際には関連事項を優先して発表するように指導する。 ・話合い時は、考えを広げること、深めること、まとめることを常に意識させ、広がったこと、深まったこと、まとめたことを振り返り等で書くよう指導を重ねていく。
専科	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年よりも話を静かに聞く習慣がついてきたが、話の内容をきちんと理解できていない児童がいる。 ・鑑賞においては、意欲的によさや特徴を感じ取っている児童が多いが、語彙力不足のため自分の思いを上手に伝えられない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容を理解しやすいように手順を視覚化したり、ICT機器を活用したりする。指示は簡潔に行う。 ・教師が積極的に専門用語を使ったり、説明したりすることで語彙力や知識を増やせるようにする ・発表の機会を増やし、自信をつけさせる。